

安全教育



第27号

平成18年
2月28日発行
発行責任者
嶋 文隆

財団法人 横浜市安全教育振興会 横浜市中区港町1-1 横浜市教育委員会内
〔事務局〕 〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831



横浜市教育委員会教育長
伯井 美徳

日頃より、子どもたち一人ひとりが明るく健やかに成長していくことを願い、子どもたちの安全のため、安全教育の普及・振興に様々な取組を展開されている横浜市安全教育振興会の皆様には、改めて感謝申し上げます。

子どもが安全に、安心して学校・家庭・地域などで社会生活を送り、元気に育っていくことは、誰もが願うところであり、私たち大人は責任をもってそれを見守っていく責務があると思います。

しかしながら、今、子どもたちをめぐる環境は、決して安全・安心に過ごせる状況とは言い難いものになっています。不登校や学級崩壊など学校教育をめぐる問題、青少年の規範意識の低下など子どもに関わる問題、また、子どもたちの生命に関わる安全・防犯をめぐる問題などがあります。

特に、子どもたちの安全・防犯をめぐる問題に関しては、少年犯罪の低年齢化や、誘拐事件、事故や犯罪に巻き込まれたり、最悪のケースでは未来ある生命が奪われるという事態が各地で発生しており、ニュースとして伝わってくる頻度も増え、看過できない状況にあります。このような状況は、少子化、核家族化の進行、地域コミュニティの希薄化など社会情勢が著しく変化してきており、子どもも大人もその変化の流れに対応できずにいることが、一つの要因ではないかと思えます。

子どもの命と安全を守ることは教育委員会としても最大の使命であり、これまでに起きた痛ましい事件を教訓として、必要な対策を迅速に進めているところです。

具体的には、学校の安全性を向上するため、運営方針にも掲げている「安心・安全な学校環境の整備」のもとに「警察等関係機関との協力体制の構築」、学校・保護者・地域の連携をさらに深めていくための「学校・地域防犯会議」の開催、「緊急時校内連絡システムの整備」、「教員・子ど

子どもたちの安全を守るには

も・家庭の防犯教育の推進」などに全力で取り組んでいます。

こうした安全・防犯に関しての取組は全国的にも高い関心があり、各自治体においても種々の施策が実施されているところですが、それにも関わらず、未だに子どもが巻き込まれる事件は後を絶たない状況にあります。

このような状況を受けて、教育委員会としても、学校の安全だけではなく、通学路から安全を高めるため、「児童生徒の通学安全等にかかる緊急対策」として、防犯の側面から通学路を再度点検する「通学路等の緊急安全点検の実施」、登下校時の安全確保についての意見交換し、協力を呼びかける「保護者、地域との連携の充実」、児童生徒に対して自らの安全を守る「自助」、周囲に危険を知らせるなどの他者の安全を守る「共助」の意識を育て、家庭と協働した「児童生徒に対する防犯教育」、「防犯チェックシートや指導事例」の配布などを行い、各学校で改めて「子どもの安全確保」に万全を期しました。

もはや社会問題となっている「子ども、学校の安全・防犯対策」について、これらの施策をより効果的に実施していくには、現状をしっかりと社会の大人たちが受け止め、日頃からの近所関係などを今一度、見つめ直し、一番身近で基本のコミュニティを大切にするという必要性を再認識し、子どもの安全・安心な生活は、社会で見守り、社会で育てていくという時代になってきていることを、改めて社会で暮らすみんなが自覚することが大事なのではないかと思えます。

横浜の未来を担う子どもたちを守り、育てる取組は学校、行政とともに、一番子どもの近くにいる保護者をはじめ、地域の皆様など、あらゆる関係機関とのつながりをもって、はじめて成り立ち、大きく広がっていくものです。今ある力を結集し、事件・事故の未然防止に繋げ、子どもの安全を確保していくことが求められています。

今後とも、皆様方の御理解・御協力をいただき、御意見・アイデアを参考にさせていただきながら、子どもたちが安心して、健やかに、たくましく成長していける横浜の教育を目指し、様々な施策の取組に努めてまいりますので、さらなるお力添えをお願いいたします。

終わりに、横浜市安全教育振興会のますますの御発展と御活躍を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

■加入状況

平成17年度加入状況

校種	校数	賛助会員数	世帯数
小学校	355	355	145,119
中学校	146	146	64,640
全日制高等学校	3	3	2,257
盲ろう養護学校	11	11	1,175
総計	515	515	213,191

■平成17年度役員・審査委員名簿

顧問	横浜市教育委員会教育長 伯井 美徳		
役職	氏名	備考	
理事長	船 文隆	学識経験者 保薦司 人権擁護委員	○
常務理事	野澤美和子	学識経験者 元市P連副会長	○
常務理事	吉野 富雄	学識経験者 主任児童委員	○
理事	河野 良雄	市教委 学校教育部 小中学校教育課長	
理事	高橋 淳一	市教委 学校教育部 健康教育課長	○
理事	木下 好夫	市教委 生涯学習部 生涯学習課長	○
理事	小島 勝	小学校長会代表 幸ヶ谷小学校長	○
理事	芹田 公一	中学校長会代表 大島中学校長	○
理事	石橋 勝彦	盲ろう養護学校代表 志南台ひの養護学校長	
医師理事	鳥山 紀衛	学識経験者 鳥山整形外科院長	○
理事	渡邊 薫	学識経験者 元小学校長	
理事	長谷岑二郎	学識経験者 元中学校長	
理事	津島志津江	学識経験者 元市P連副会長	
理事	三枝木鉄朗	学識経験者 民生児童委員	
理事	船崎 昭義	横浜市PTA連絡協議会 会長	○
理事	鈴木 由香	横浜市PTA連絡協議会 副会長	○
理事	大平口良人	横浜市PTA連絡協議会 副会長	
監事	國原 幸弘	市教委 総務部 総務課長	
監事	安田 渡	横浜市PTA連絡協議会 会計	
医師	永持 和一	永持クリニック院長	○
医師	貞部 修	貞部歯科院長	○

○印は審査委員

■見舞金等の給付

平成16年度見舞金等給付一覧表

(平成16年度4月1日～平成17年3月31日) (単位 円)

給付種別・事由・対象	給付件数	給付額
1 児童生徒事故見舞金	児童 (1) 傷害事故	2,220 26,229,060
	生徒 (1) 傷害事故	217 3,106,040
	児童 (2) 障害	21 1,111,280
	生徒 (2) 障害	2 69,500
	児童 (3) 交通事故	20 603,000
	生徒 (3) 交通事故	24 72,000
小計	2,686	31,590,880
2 児童生徒引当金	児童 (1) 学校管理下外事故死	3 1,500,000
	生徒 (1) 学校管理下外事故死	1 500,000
	児童 (2) 交通事故死	3 600,000
	生徒 (2) 交通事故死	1 100,000
	児童 (3) 登下校中の交通事故死	0 0
	生徒 (3) 登下校中の交通事故死	0 0
児童 (4) 病死等	3 60,000	
生徒 (4) 病死等	14 280,000	
小計	25	3,040,000
3 保護者弔慰金	小学校	65 1,300,000
	中学校	88 1,760,000
	顕彰部員	9 180,000
小計	162	3,240,000
4 PTA主催共催事故見舞金	(1) 傷害事故	35 815,235
	(2) 障害	0 0
	(3) 交通事故	1 3,000
	(4) 事故死	0 0
	(5) 往復途次の交通事故死	0 0
	(6) 病死等	0 0
小計	36	818,235
合計	2,909	38,689,115
振込手数料	2,059	607,410
総計		39,296,525

平成17年度上期見舞金給付一覧表

(平成17年4月1日～平成17年9月30日まで) (単位 円)

給付種別・事由・対象	給付件数	給付額
1 児童生徒事故見舞金	児童 (1) 傷害事故	1,081 12,390,935
	生徒 (1) 傷害事故	79 1,019,635
	児童 (2) 障害	7 296,050
	生徒 (2) 障害	1 96,100
	児童 (3) 交通事故	86 258,000
	生徒 (3) 交通事故	8 24,000
小計	1,262	14,084,720
2 児童生徒引当金	児童 (1) 学校管理下外事故死	1 500,000
	生徒 (1) 学校管理下外事故死	0 0
	児童 (2) 交通事故死	0 0
	生徒 (2) 交通事故死	0 0
	児童 (3) 登下校中の交通事故死	0 0
	生徒 (3) 登下校中の交通事故死	0 0
児童 (4) 病死等	4 110,000	
生徒 (4) 病死等	5 130,000	
小計	10	740,000
3 保護者弔慰金	小学校	38 1,070,000
	中学校	54 1,520,000
	顕彰部員	2 60,000
小計	94	2,650,000
4 PTA主催共催事故見舞金	(1) 傷害事故	14 400,375
	(2) 障害	0 0
	(3) 交通事故	3 9,000
	(4) 事故死	0 0
	(5) 往復途次の交通事故死	0 0
	(6) 病死等	0 0
小計	17	409,375
合計	1,383	17,884,095
振込手数料	977	292,740
総計		18,176,835

安全教室の開催 (平成17年度)

防災安全教室

- 会場 横浜市民防災センター
- 日時 参加者
 - 第1回 平成17年 5月31日 (火) 55名
 - 第2回 平成17年 6月21日 (火) 48名
 - 第3回 平成17年 7月 8日 (金) 39名
 - 第4回 平成17年 9月27日 (火) 45名
 - 第5回 平成17年10月26日 (水) 53名
 - 第6回 平成17年11月22日 (火) 47名
- 内容 ◎防災講話 ◎展示コーナー
◎起震機体験 ◎消火器体験



救急法教室

- 会場 横浜市民防災センター
- 日時 参加者
 - 第1回 平成17年 5月31日 (火) 56名
 - 第2回 平成17年 6月21日 (火) 41名
 - 第3回 平成17年 7月 8日 (金) 44名
 - 第4回 平成17年 9月29日 (木) 52名
 - 第5回 平成17年10月26日 (水) 42名
 - 第6回 平成17年11月24日 (木) 49名
- 内容 ◎普通救命講習



区・部会講演会研修会の開催

★各区・部会において、次の講演会研修会が開催されました。

区名	開催日	会場	事業名	講師
鶴見	17.12.3	鶴見公会堂	「子ども110番の家」実現に向けて	武田 信彦
神奈川	17.9.8	かなっくホール	子どもの声を聴こう	青木和雄、吉宮多美
西	18.2.17	西公会堂	いっしょに育もう	日浦 美智江
中	17.6.25	元街小学校	中区PTA文化交流会「ズドゥラーストゥヴィチェ! こんにちは!」	テレム・カルテット
南	18.2.2	フォーラム南太田	子どもと学校のつながりを考える	伊藤理恵、伊藤京子
港南	17.11.17	港南公会堂	つながっている命	川田 悦子
保土ヶ谷	17.12.8	保土ヶ谷公会堂	親の役割について	義家 弘介
旭	17.11.21	旭公会堂	保護者へのメッセージ～子どもたちとどのように向きあうか～	義家 弘介
金沢	18.1.25	金沢公会堂	子どものココロ	義家 弘介
港北	18.1.14	港北公会堂	動物を育てる	増井 光子
緑	18.2.17	緑公会堂	ストレス基礎講座～楽しく子育て楽しくPTA活動をするために～	杉野 未矢
青葉	17.11.18	青葉公会堂ホール	子どもたちの未来のために 今、わたしたちがすべきこと	義家 弘介
都筑	18.2.11	ハウスクエア横浜	親子で学ぼう護身術	CCTT
戸塚	17.12.9	戸塚公会堂	落語「演目：子の心 親知らず」	笑福亭松枝
栄	17.11.25	西本郷中学校	今、親として～耳をかたむけていますか子どもの心のつぶやきに～	義家 弘介
泉	17.10.22	泉公会堂	子どもたちがかわるサイバー犯罪等の現状について	外野 智喜
瀬谷	17.11.26	瀬谷公会堂	育児は育自～子どもの未来は家庭の教育力から～	尾木 和英
高校	17.10.28	ホテル横浜ガーデン	100年生きる子どもの心と体を大切に育てたい	三宅 捷太
盲ろう養護	18.2.27	港南台ひの養護学校	元気の出る子育て	義家 弘介

子どもの安全を守るための保護者やまちとの「協働」

～全ての子どもが安心して暮らせる環境づくり～

横浜市立本町小学校

1 「まち」との連携による安全な環境づくり

子どもたちを取り巻く社会状況の変化に対応し、登下校や在校中の子どもたちの安全を確保するため、本校では保護者や地域、警察、消防をはじめ関係機関のたくさんの方々と「協働」して取り組んでいます。

2 子どもの安全を守る取組

入学直後の1年生の下校は、5つのグループをつかって教師の引率のもとで下校しています。このグループ下校に、今年度からPTA校外委員さんが自主的に加わり、学校から解散場所までの1年生の安全確保と指導をしていただきました。入学時の安全な下校に、とても大きな力となりました。

学校では、自分の安全を守る手だてを身に付けるために、新学期が始まって早々に1・2年生を対象とした「連れ去り防止訓練」や「交通安全・歩き方教室」を実施しました。当日は、伊勢佐木警察署生活安全課と防犯協会、県のくらし安全指導員の方々のご指導のもと、本町小学校スクールモニターや校外委員、1・2年生の保護者の方々にも参観していただきました。

また、不審者が侵入した時どのように対応したらよいかを、実技を通して全職員で研修しました。不審者役をくらし安全指導員の方にお願ひし、実際に動いてみることによって、より具体的な対応方法を身につける必要を感じました。後日、子どもたちも参加した不審者への対応訓練では、教職員が共通理解したことを生かして、有意義な訓練になりました。



子どもたちの登下校の安全確保のために、本町小学校スクールモニター、西区第一地区通学路パトロール「まもり隊」、伊勢佐木警察署、警備会社勤務のボランティアの方々などが通学路に立ち、「いってらっしゃい」「おかえりなさい。今日は楽しかった？」など声をかけながら、子どもたちの安全を見守ってくださっています。また、警視会（警察のOB会）の伊那さんは、警察マークの入ったベストを着て、子どもたちの下校時刻に毎日、正門前で見守っていただいています。

保護者の方々も「防犯パトロール中」のパネルを自転車に付けて、買い物の往復などに子どもたちの安全を見守ってくださっています。また、スクールモニターや西区第一地区通学路パトロール「まもり隊」の皆さんの黄緑のジャンパーや緑の腕章が犯罪の抑止力となっています。



また、11月からは中消防署の方々が、地域の防火警邏も兼ねて子どもたちの登下校時に消防車で巡回していただいているほか、中区役所の緑のパトロール車も加わり、安心がまた一つ増えました。



そのような中、11月末と12月初めに連続して子どもが被害者となる痛ましい事件が発生しました。本校では、直後に全教職員で学区内の安全点検を実施。その後もPTAとの合同の安全点検を再度行う中で危険箇所を見直しました。子どもたちにはチェックシートや安全マップを用いて安全指導を繰り返し行い、自分の身を守る意識を浸透させました。

下級生の方面別下校では、1・2年生が仲良く下校する姿が見られます。

地域や保護者の方々へ向けて「学校に力をお貸しください」という緊急アピールを発信したところ、子どもたちの安全を守るために自治会や商店、個人としてたくさんのお申し出もいただきました。「社会の宝である子どもたち」をみんなで守っていこうという気持ちを、大変嬉しく、頼もしく感じました。

3 まとめ

実践充実の途上ではありますが、保護者や町の方々と協働・連携する中で子どもたちの安全は格段に向上しました。その中で、施設面での安全策には限界がありますが、町の人々との連携には限界はないということを感じました。これからも、いろいろな方々のお力をお借りしながら、子どもたちの安全・安心を高めていきたいと思っています。

学校、家庭、地域と関係機関等が連携を図り 子どもたちの安全を考えよう！

横浜市PTA連絡協議会

社会の宝として大切に育てられるべき子どもたちが、幼くして、傷つけられ、また命を絶たれる事件が後を絶ちません。そこで、子どもたちの安全を守る取り組みがどのようにできるか、横浜市PTA連絡協議会では12月に「子どもたちの安全を考える会」を開催し、役員と各区から選出された常置委員と共に子どもたちを対象とした犯罪の発生状況や行政、警察、PTAの取り組みなどについて話し合いました。「子ども110番の家」、「子ども110番の車」、「防犯パトロールのステッカー」、「ワンワンパトロール」、「防犯ブザーの携帯」など浸透してきている活動と「よこはま学援隊」、「学校・地域防犯会議」、「防犯チェックシート」、「各区の地域振興課の取り組み」、「よこはま安心安全プラン」、「駆け込み110番」、「スクールポリスネット」、「スクールガードリーダー」、「メール配信システム」など、まだまだ浸透していない取り組みも多くありました。そこで、市P連のホームページに「子どもたちの安全を守ろう！」というページを開設し、安全対策の情報掲載をすることにいたしました。各単位PTA学区の住環境に合わせて、導入できる取り組みがありましたら是非、積極的に取り入れていただきたいと思えます。

また、PTAとしての新たな取り組みの模索と同時に、既存の活動の見直し時期であると感じ、この新しいページから単位PTAに向けて活動の見直し、点検を呼びかけます。

■ I Dカードの導入の項では ■

check!
1

I Dカードは一目見て本校の保護者と分かるものですか？

→様々な色、形態、文字様式、ストラップでは抑止力にはなりません。

check!
2

授業参観、懇談会等の際に、I Dカードのチェックをしていますか？

→受付が無人であったり、チェックが無く素通りできるような抑止力にはなりません。

check!
3

運動会や文化祭など不特定多数の来校者がある場合、I Dカードの携帯を緩和していませんか？

→事前申し込み制にし、児童生徒を介して臨時のI Dカードの受け渡しも可能です。地域の方に関しては、町名までのご住所とお名前をいただき、その場でI Dカードの発行も可能ではないでしょうか？

不審者の校内侵入を防ぐため、I Dカードのチェックの徹底は必要不可欠です。

横浜市PTA連絡協議会



<市P連ホームページ 表紙>

<http://www.pta-yokohama.gr.jp>

子どもの安全については、来年度以降、市P連の事業研修委員会でも引き続き話し合いを行います。県、市、区、教育委員会、神奈川県警などの子どもたちの安全対策については、市P連が中心となり連携を図るべきと考え、役員、理事、行政警察関係者を交えての特別委員会の設置も視野に入れております。また、子どもへの安全教育は学校教育は元より、家庭教育も必要なことから、保護者が地域の方やPTA委員だけに頼らず、各々の家庭で安全対策が講じられるように、また、我々保護者は被害者にも加害者にもなりうる子どもたちの親であることを自覚し、明るい未来社会を創る担い手として、我が子に目を向け、育てていけるように家庭教育学級の内容徹底を呼びかけてまいります。

修学奨励金の給付

小学校	98人
中学校	53人
高等学校	6人
盲ろう養護学校	11人
計	168人 7,510,000円

(給付額は小学生4万円、中学生5万円、高校生6万円)

安全教育推進団体に対する助成

- 申請のあった単位PTAへ対する助成 1校 4万円
404校 16,160,000円
- 区・部会PTA講演会研修会等助成 3,379,500円
- 横浜市PTA連絡協議会事業助成 2,550,000円
- 第10回野島クリスマスキャンプ事業助成 100,000円
第12回若者の飲酒を考えるフォーラム事業助成 100,000円
第3回学校給食展示会助成 100,000円
第58回全国連合小学校長会研究協議会神奈川大会助成 200,000円
第42回開校P神奈川大会助成 200,000円
横浜教育フェスティバル助成 413,400円

会報の発行

第27号 平成18年2月28日 加入校全世帯へ配布

安全教育推進団体に対する助成

～各団体における活動の一コマ～

横浜市PTA連絡協議会助成

事業◆第49回PTA音楽交歓のつどい

実施日◆平成18年1月16日

17日・24日・25日

会場◆神奈川公会堂

参加◆2000名

日常の練習の成果が十分に発揮され素晴らしい歌声でした。来年は50回記念の音楽交歓のつどいになります。



第10回 野島クリスマスキャンプ2005

日時◆平成17年12月17日(土)～18日(日)

会場◆横浜市野島青少年研修センター

今年は10周年記念ということで、10回のキャンプとは別に「10周年記念の集い」を行った。

10回参加者◆子ども・保護者・ボランティア87名

10周年記念の集い◆CB・OG・保護者・ボランティア89名

どちらも、ボランティアの支援で子どもたちは楽しいひと時を過ごせた。



区・部講演会・研修会助成 (区研修会事例)

事例◆瀬谷区PTA連絡協議会

事業◆育児は育自

～子どもの未来は家庭の教育力から～

講師◆尾木和英

実施日◆平成17年11月26日

会場◆瀬谷公会堂

家庭教育力の向上が子どもの将来の成長に繋がるということから、「育児は育自」をテーマに講演会を実施。参加者は区内の幼、小、中、高校の保護者等350名。



第12回 若者の飲酒を考えるフォーラム

日時◆平成17年11月27日(日)

会場◆横浜市健康福祉総合センター

参加◆160名

対象◆中学生、高校生、大学生、PTA、教育関係者、アルコール医療関係者、公衆衛生活動関係者等を代表とする一般市民等々

目的◆若者のアルコール関連問題の現状をより多くの人に理解してもらい、その予防について、若者自身と彼らを取り巻く人々や社会環境の望ましい在り方を考える。



単P事業助成 (小学校事例)

小学校事例◆緑園西小学校

事業◆交通安全教室

実施日◆平成17年7月12日

自転車による交通事故が増加傾向にあるなか、泉警察署のご支援ご協力で交通安全教室を実施した。安全な歩行、自転車安全教室、ダミー人形による巻き込み実験等を通して交通事故防止の意識高揚を図ることができた。児童、保護者、教職員685名参加。



第3回 学校給食展示会

日時◆平成18年1月21日(土)

会場◆新都市プラザ エブリデイ (そごう地下2階入り口前)

参加◆市民のみなさん(1,300名)

目的◆市民のみなさまに、展示を通して横浜市の学校給食について理解を深めていただく。
◆学校栄養職員の仕事の内容を紹介し、学校給食に果たす栄養職員の役割について理解していただく。



単P事業助成 (中学校事例)

中学校事例◆市ヶ尾中学校 事業◆わくわく交流会

実施日◆平成17年9月10日

会場◆校庭、体育館、各教室

ねらい◆

「まち」の人たちと共に生き(共生)、「まち」の人たちから仕事を学び(個性)、「まち」作りで活動している人たちの思いを知り(学び合い)、「まち」の未来と自分のいき方を考え、深めていく(解決・個性)。605名参加。



(財)横浜市安全教育振興会では、安全教育の普及振興のために専門家による教育講演会を、昨年度に引き続き開催いたしました。今回のテーマは「安全」。昨年度のアンケート結果でも多数を占めた希望テーマでもあり、また今、子どもを取り巻く社会状況の中で深刻な、かつ緊急的な問題として取り上げるべきものと考えた次第です。

今年度は「いかにして守るか、子どもの安全」と題し、講師に



講師 ©山本俊哉 氏

子どもの安全

「親と教師が出来ること」

いかにして守るか、

安全で安心な
まちづくり

～防犯まちづくりの推進～



山本俊哉氏をお迎えして、「まちづくり」という新しい観点から「子どもの安全」をご講演いただきました。また、会場には市内小中盲ろう養護学校の保護者の皆様、学校関係者の方々に多くのご参加をいただき、ご協力に感謝申し上げます。

以下は2005年11月7日(月)に関内ホールで行われました講演会の概要です。

—講演会報告—

講師 © 山本俊哉 氏 (明治大学理工学部建築学科助教授・横浜安全安心プラン策定委員会副委員長)

開催日時	平成17年11月7日(月) 午後1時30分～3時30分
会場	関内ホール<馬車道> 中区住吉町4-42-1
参加者	約670名(横浜市立小・中・盲・ろう・養護学校保護者、教職員、学校関係者)
主催	財団法人横浜市安全教育振興会
共催	横浜市教育委員会・横浜市PTA連絡協議会
後援	横浜市立小学校長会・横浜市立中学校長会・横浜市立盲ろう養護学校長会



「防犯対策に切り札はない、安全に絶対はない」という言葉から山本先生の講演は始まりました。まずはあの神戸児童連続殺人事件の現場がプロジェクターによって示されました。ここは町づくりの建築プランとして教科書に載るほどの場所がそうです。その町にあるさまざまな死角。それは我々の町にある死角なのです。また、続いて池田小事件にも言及されました。この事件は文科省から「開かれた学校づくり」の提言がなされた直後に起こったそうです。山本先生は、外部からの研修者が多い・地域との連携がなかったという池田小の特殊性を指摘され、また、この学校建築のもつ問題点に言及されました。そして、この池田小事件を教訓に門、見通し、教室配置などさまざまな問題の解決に向けての検討が行われている最中に、京都の宇治小事件が発生したそうです。この小学校は防犯カメラの設置もあったにも拘らず事件が起こったのです。犯人は第二通用門から侵入し、またセンサーが切れ、防犯カメラのモニターは誰も見ていなかったことがわかり、防犯カメラの設置・運用には大きな課題が残りました。山本先生は「防犯カメラは犯罪



を押し止す」という過信を持ってはいけないと断言しています。それでは学校での子どもの安全はどのようにすれば守れるのでしょうか。それは教師が学校の防犯・安全と向き合っていくことが大切であると述べられ、アメリカのコロンバイン高校の事件を例に挙げられました。死者13名を出した痛ましい事件ですが、アメリカの学校における安全管理の考え方は「学校を刑務所にはならない」とのことだそうです。それと同じくした考え方で、京都の例も紹介されました。キーワードは「人の輪」。京都では「人の輪で子どもを守ろう」ということを基本理念とし、さまざまなことが検討されたそうです。校長室と職員室の移設、窓の透明化、防犯カメラ、地域の活動拠点としてのふれあいサロンの設置、花と緑のグリーンベルト計画などが挙げられました。特にグリーンベルト計画については、環境美化の向上が地域で好評を得られ、地域との共同管理体制もしかれたため、顕著な防犯効果も認められたそうです。

では、「子どもの安全を守る」ために我々には何ができるのでしょうか。その具体的な方策として一番大切なことは「危機管理」であるとお話はつながっていきました。不審者進入に対する学校の**危機管理**の二つの観点、



一つ目は事前の危機管理⇒侵入の未然防止、二つ目として事後の危機管理⇒侵入事件後の対応です。特に事後については落としがちな面もあり、細かい留意点も交えて有益なお話でした。大切なことはそれぞれの学校に即した独自の危機管理マニュアルが必要であり、現場における点検、課題に応じた防犯訓練の実施に大きな意味があることを指摘されました。またそこから地域とのかかわりの重要性についても言及されました。

次は「子ども自らによる安全確保」に話が移りました。子どもの略取誘拐事案の実態では、「自分からついていく」ケースが意外に多いことがデータによって示されました。また時刻は午後3～6時、発生場所は路上、被害者の人数は単独、被害者の年齢は小学生が多いということも実態データとして示されました。その他のデータからも被害は特別な場所で特別な時刻に起こっているのではないということがよくわかります。子ども自身の危機回避能力をあげていく努力が必要と納得したものです。「**行かない」「逃げる」「声をだす**」という安全確保策を子どもに徹底していくことが必要でしょう。

また、山本先生は防犯と環境についても興味深い話をされました。**防犯環境設計**という言葉があるそうですが、その意味は次の通りです。「人間によって造られる環境の適切なデザインと効率的な使用によって、犯罪に対する不安感と犯罪の減少、そして生活の質の向上を導くことができる設計のこと」。山本先生は**美しい街づくりこそが防犯へつなげる**ものであると話をされました。具体的な事例でのお話でしたのでよくわかり、解ではなく、周囲の「人の目」の確保こそが防犯になるというお考えは説得力のあるものでした。では、どんな具体的な方策があるのでしょうか。その疑問にも山本先生は解答を用意されていました。お話は次のように続きます。**防犯パトロール**についての成功例をご紹介になったのです。京都の門掃きとあいさつ運動、烏山地区や嵯峨のワンワンパトロール、堺市登美丘地区の夜間100人パトロールなど、どの事例も大変興味深いものでこれからの地域活動につなげられる可能性を感じました。成功の秘訣を先生はこうまとめられました。「気軽に取り組む・権限をもたない・きちっとした組織づくりはしない・広がりをもたない・楽しくありたい・継続したい」。そして「めざすべきまちのイメージ」は高い壁のある要塞化された、死角のない白々した、冷たい「まち」ではなく、楽しめる、自然環境と共生した、高齢者も不自由なく屋外に出て子どもたちを見守る**夢のある「まち」**であると締めくくられました。

防犯のキーワードはまさに「人」と「夢」である。

本講演会の開催に際しましてご協力いただきました関係諸機関の皆様方に深く感謝申し上げます。今後も積極的に安全教育の推進を図っていきたくと考えております。ますますのご支援、よろしくお願い申し上げます。